

「悪霊軍団追放と平和の到来」

ルカによる福音書

8:26 一行は、ガリラヤの向こう岸にあるゲラサ人の地方に着いた。

8:27 イエスが陸に上がられると、この町の者で、悪霊に取りつかれている男がやって来た。この男は長い間、衣服を身に着けず、家に住まないで墓場を住まいとしていた。

8:28 イエスを見ると、わめきながらひれ伏し、大声で言った。「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ。頼むから苦しめないでほしい。」

8:29 イエスが、汚れた霊に男から出るように命じられたからである。この人は何回も汚れた霊に取りつかれたので、鎖でつながれ、足枷をはめられて監視されていたが、それを引きちぎっては、悪霊によって荒れ野へと駆り立てられていた。

8:30 イエスが、「名は何というか」とお尋ねになると、「レギオン」と言った。たくさんの悪霊がこの男に入っていたからである。

8:31 そして悪霊どもは、底なしの淵へ行けという命令を自分たちに出さないようにと、イエスに願った。

8:32 ところで、その辺りの山で、たくさんの豚の群れがえさをあさっていた。悪霊どもが豚の中に入る許しを願うと、イエスはお許しになった。

8:33 悪霊どもはその人から出て、豚の中に入った。すると、豚の群れは崖を下って湖になだれ込み、おぼれ死んだ。

8:34 この出来事を見た豚飼いたちは逃げ出し、町や村にこのことを知らせた。

8:35 そこで、人々はその出来事を見ようとしてやって来た。彼らはイエスのところに来ると、悪

霊どもを追い出してもらった人が、服を着、正気になってイエスの足もとに座っているのを見て、恐ろしくなった。

8:36 成り行きを見ていた人たちは、悪霊に取りつかれていた人の救われた次第を人々に知らせた。

8:37 そこで、ゲラサ地方の人々は皆、自分たちのところから出て行ってもらいたいと、イエスに願った。彼らはすっかり恐れに取りつかれていたのである。そこで、イエスは舟に乗って帰ろうとされた。

8:38 悪霊どもを追い出してもらった人が、お供したいとしきりに願ったが、イエスはこう言ってお帰しになった。

8:39 「自分の家に帰りなさい。そして、神があなたになさったことをことごとく話して聞かせなさい。」その人は立ち去り、イエスが自分にしてくださったことをことごとく町中に言い広めた。

嵐が静まった後、舟は向こう岸のゲラサ人の地方に到着しました。

この箇所と並行記事はマルコによる福音書に書かれているのですがそこにはこうあります。

5:1 一行は、湖の向こう岸にあるゲラサ人の地方に着いた。

5:2 イエスが舟から上がられるとすぐに、汚れた霊に取りつかれた人が墓場からやって来た。

5:3 この人は墓場を住まいとしており、もはやだれも、鎖を用いてさえつなぎとめておくことはできなかった。

5:4 これまでにも度々足枷や鎖で縛られたが、鎖は引きちぎり足枷は砕いてしまい、だれも彼を縛っておくことはできなかったのである。

5:5 彼は昼も夜も墓場や山で叫んだり、石で自分を打ちたたいたりしていた。

ここに出てくる人はどこから見ても異常な感じがしますが、この人は心の中にある不安や恐れにコントロールされ、他者のことはまったく目に入らず、他者の助言は聞けず「異質なボス」の下に牛耳られている人のように見えてきます。

「衣服を身に着けず・墓場に住み・鎖さえも引きちぎり、足かせも砕きつつ、叫び声をあげ、石で自分をうち叩いていた」

そして、驚くべきことに、イエス様が舟で向かったのは「このひとりの人」のためだったということです。

もしかしたら、弟子たちは、わざわざ、こんな人のために嵐の中をやってきたのかと思ったかもしれません。

この人は悪霊の支配下にあり、文字通り悪霊によって振り回されていたのです。

そして、悪霊の仕業として書かれている内容で深刻なのは

「自分を傷つける」「内なる叫び、うめき声をあげながら死とすれすれの隣合わせに置かれ」「自らの気持とはうらはらに振り回されている」ということです。

悪霊の仕業かどうかは別として「現代人の中に」ここに出ている人と似たような傾向はないでしょうか。

「自分をいじめ、傷つける。・死を必要以上に意識しながら恐れつつ・振り回されるように生きている」という姿はあなたの心の中に「身近な姿」として映っていないでしょうか。

イエス様は、まさに、そういう人を探し出して救うために活動されたのです。

この人の反応を見ていきましょう。

8:28 イエスを見ると、わめきながらひれ伏し、大声で言った。「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ。頼むから苦しめないでほしい。」

8:29 イエスが、汚れた霊に男から出るように命じられたからである。この人は何回も汚れた霊に取りつかれたので、鎖でつながれ、足枷をはめられて監視されていたが、それを引きちぎっては、悪霊によって荒れ野へと駆り立てられていた。

8:30 イエスが、「名は何というか」とお尋ねになると、「レギオン」と言った。たくさんの悪霊がこの男に入っていたからである。

8:31 そして悪霊どもは、底なしの淵へ行けという命令を自分たちに出さないようにと、イエスに願った。

この男の人の言葉でありながら、これらの答えはこの人の内側に巣食っていた「悪霊たち」の応答でした。

しかし、この人自身の中にも「イエスの中に光が、希望がある」ということを感じてイエス様と向き合ったのでしょうか。それに対して内側の悪霊たちが悲鳴をあげたということなのだと思います。

イエス様はその人の中に巣食っていた悪霊に名前を尋ねます。

「レギオン」と答えがありました。

これは「軍団」という意味です。

しかし、この悪霊の軍団がイエス様に向かって懇願している様子が描かれています。

8:31 そして悪霊どもは、底なしの淵へ行けという命令を自分たちに出さないようにと、イエスに願った。

つまり、悪霊たちはやがて滅ぼされる自分たちの運命を知っているのです。

彼らはイエス様に対して何の力も持っていないのです。

彼らの方で豚の中に入ることを願ってそのとおりになり、彼らは崖から雪崩落ちて溺れてしまいました。

悪霊たちは豚の集団が煽られて崖から雪崩落ちるような衝動、エネルギーを持っているということですし、そういうエネルギーが人を支配し、振り回しているという現実を認識する必要があると思います。それでもイエス様に対しては手出しができないのですから。

その結果、この人は正気に戻りました。救いが届きました。

気が狂ったような支配する力が、去り、神の平和が訪れました。

キリストの平安がその人の心に入り、いわば王座が入れ替わりました。

ボスが変わったのです。

8:35 そこで、人々はその出来事を見ようとしてやって来た。彼らはイエスのところに来ると、悪霊どもを追い出してもらった人が、服を着、正気になってイエスの足もとに座っているのを見て、恐ろしくなった。

8:36 成り行きを見ていた人たちは、悪霊に取りつかれていた人の救われた次第を人々に知らせた。

これこそ、イエス様のやってきたひとつの大きな理由でした。

病める人が癒やされ、正気に戻り、本来の人生を取り戻す出来事がここに起こりました。

彼はもがき苦しみ、翻弄されてきた人生から解放され、正気に戻ったのです。

イエス様とまっすぐ顔を向けて話せるようになったのです。

ところが、周囲の人たちの反応はいまひとつ盛り上がりません。

8:36 成り行きを見ていた人たちは、悪霊に取りつかれていた人の救われた次第を人々に知らせた。

8:37 そこで、ゲラサ地方の人々は皆、自分たちのところから出て行ってもらいたいと、イエスに願った。彼らはすっかり恐れに取りつかれていたのである。そこで、イエスは舟に乗って帰ろうとされた。

この解放された人と一緒に喜んでくれる人の数は少なく、むしろ、迷惑でもあるかのような取り扱いです。

イエス様に感謝するどころか、「出ていってください」と追い出してしまうのですから。

悲しい現実がここに 있습니다。

人の解放、人の癒やし、人の回復を素直に喜べない心が社会の中に満ちています。

「自己責任」という言葉を使って、他者との隔絶を当たり前のようにする社会が現状の日本の蔓延しています。

解放された人はよろこび、イエスさまのお供をしたいと申し出るのですがイエス様はそれを断ります。

8:38 悪霊どもを追い出してもらった人が、お供したいとしきりに願ったが、イエスはこう言ってお帰しになった。

8:39 「自分の家に帰りなさい。そして、神があなたになさったことをことごとく話して聞かせなさい。」その人は立ち去り、イエスが自分にくださったことをことごとく町中に言い広めた。

「自分の家に帰り、家族に、そして知っている人たちに、神様があなたに何をしてくださったのかをことごとく話して聞かせるように」

と命じられたのです。

これは簡単なようで一番むずかしいミッションかもしれません。

あなたのことを一番良く知っている人に（神様が何をしてくださったかを分かち合う）ことは名前の知らない大勢の人を集めて福音の説教を聞かせることより何十倍も、ときには何百倍も難しいことです。

あなたの普段の言動をしているからです。

格好よい話は通用しないのです。

さて、あなたは今日、あなたの家の人に、そして知り合いに、何を伝えますか？

なにか伝えるべき内容をお持ちですか？

それとも、イエス様に、ちょっと向こうに行っていてほしいという気持ですか？

イエス様は舟を使って、一人の人の解放のためにやってきてくださいました。

あなたのためにこそ、来てくださったのが救い主イエス様です。

感謝と礼拝をささげ、心の中の平安を求めましょう。

イエス様はあなたの心の暗闇を一掃し、平安をもたらすことがおできになります。

墓から遠く、生きることができます。

自分を傷つける人生ではなく、自分も他者も愛する事ができる人生を

イエス様はもたらしてくださいます。

イエス様を

心に歓迎しましょう。

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/ECL5X2sH1L8>